

— しているプレイヤー —
姉弟遊戯

後編

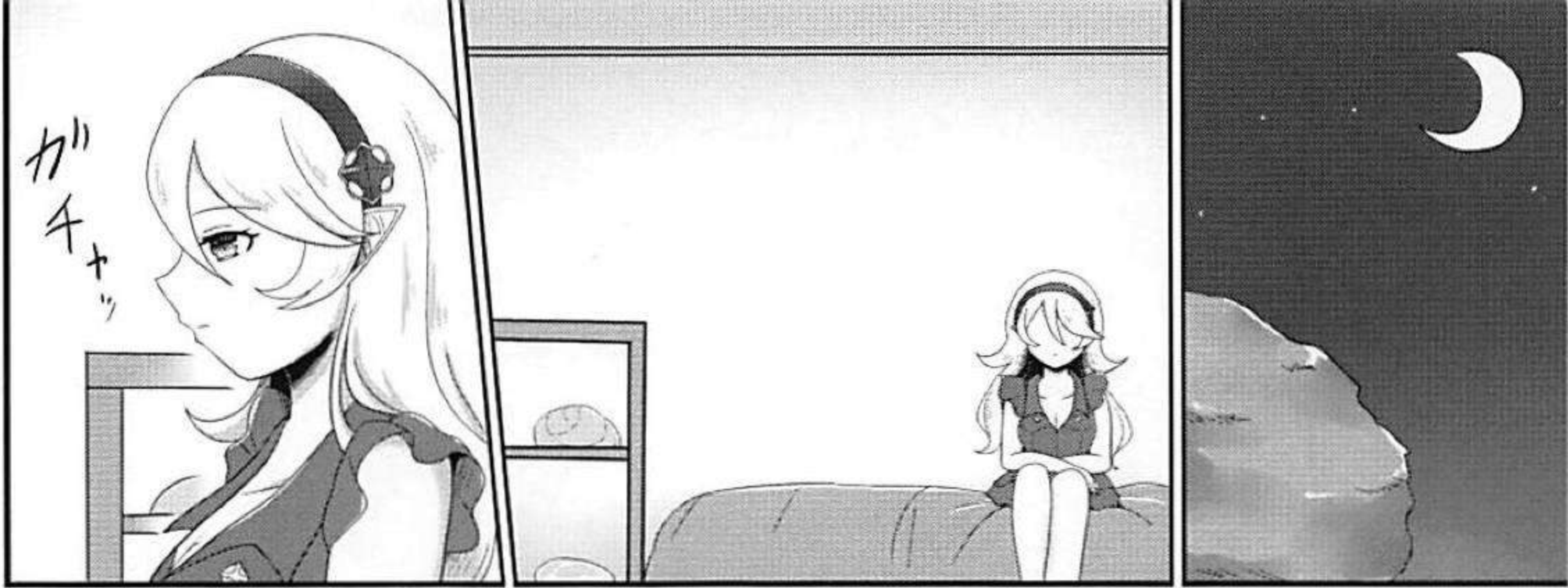
成人向



—していいプレイ—
姉弟遊戯

後編





か
キ
ャ
ッ

よ
か
っ
た
…



姉
さ
ん
が
呼
び
出
し
た
か
ら
ね



来
て
く
れ
た
の
で
す
ね



そ
れ
で
用
事
は
?

ニ
ッ



何
で
も
…
?

何
で
も
す
る
か
ら
僕
が
あ
ん
な
こ
と
し
て
も
本
気
で
抵
抗
し
な
か
っ
た
ん
だ
?



言
っ
た
で
は
な
い
で
す
か
私
は
タ
ク
ミ
さ
ん
と
仲
良
く
な
り
た
い
っ
て

タ
ク
ミ
さ
ん
と
仲
良
く
な
れ
る
の
な
ら
私
は
何
で
も
し
ま
す
よ



本当は……
痛くて怖くて

何も考えられ
ませんでした



気付いて
いたのですね

酷いことをされても
それでタクミさんと
仲良くなれるなら……

私は受け入れるしか
ありません



……ごめん姉さん

僕も……さすがに
やりすぎたと思った

姉さんの胸を見て
正直興奮したんだ

それで……
止められなくて

かあ……

僕は何を
言っているんだろう

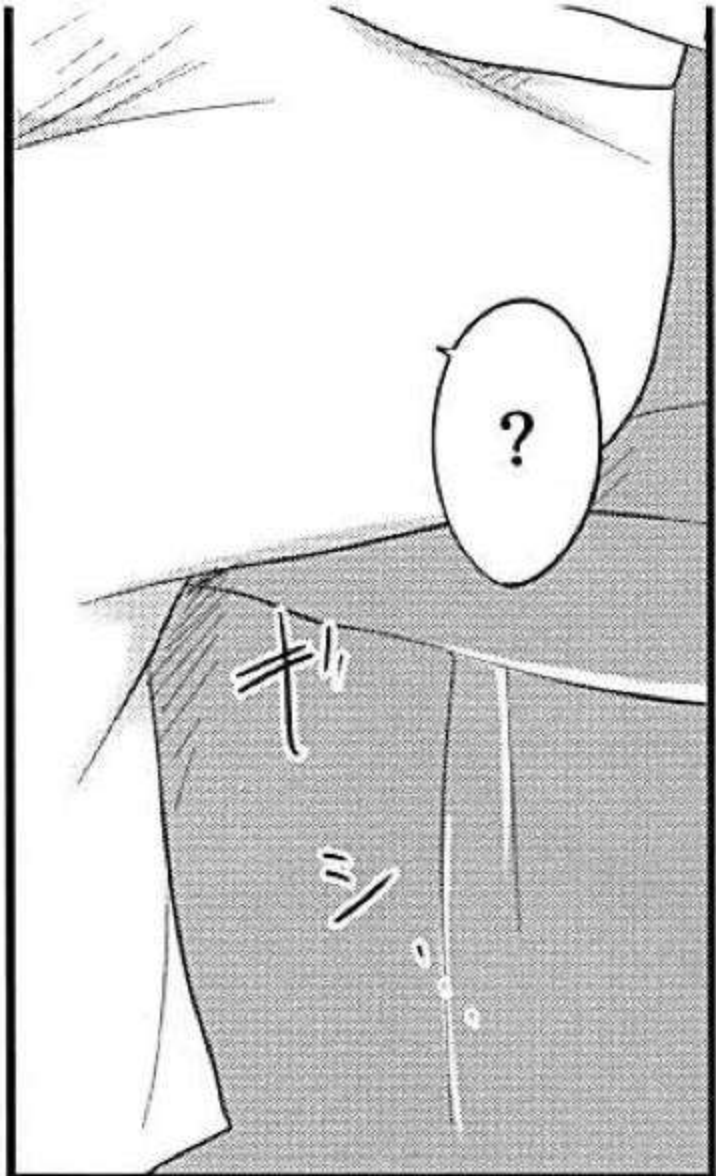


まあ……
やはり私の胸が
好きなのですね？

あなたに
欲情したなんて

うん……

どうして実の姉に
こんなこと……



?



タクミさん

こちらに来て
座ってください



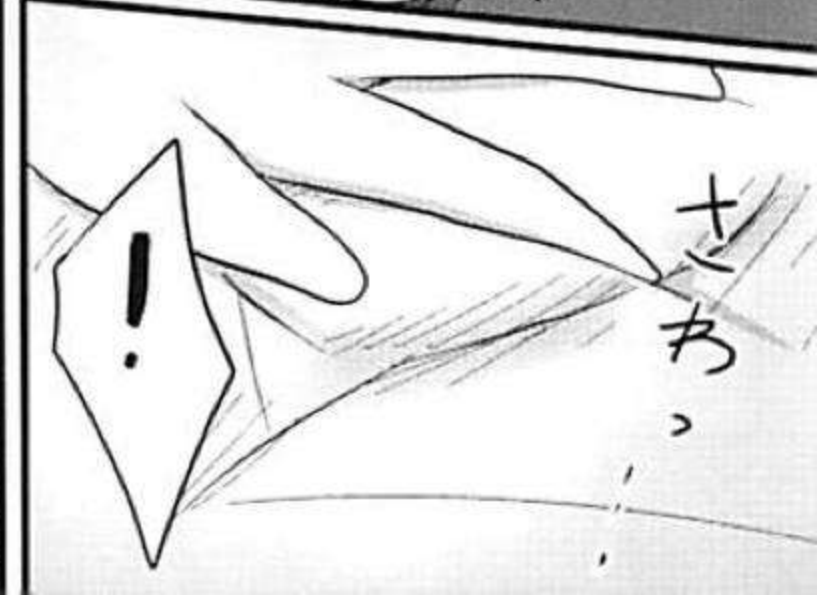
タクミさん…

クス…

ね…姉さん!?



な…何の
つもりだよ!?



！



ですから……
こういうことをすれば
タクミさんは



タクミさんと
仲良くなるためです

昨日のタクミさんは
ずっと私のことを
見てくれました



……

みち……



っ……!



っ……!



タクミさん……
この下着を外して
いただけませんか？



このまま
大きくなったら
つらいでしょう？



姉さんが触る度
本能的に感じて…

つんっ

ビクッ

でも…



ね……？



姉さんが気持ちよく
してあげますから



啞えながら
喋るなよ!

たふみはんの...
おおひふて...

あんまり歯を
立てないでよ...
痛いから

当たり前だ

なかなか出して
くれないのですね

そうですか...
それなら

そう簡単に出たら
服が擦れただけでも
出るだろ

ぷはっ



うわっ！

よかった……
ちゃんと包めましたね

あ

じゅん



姉さ……

ん



こうすると
男の人は
喜ぶんですね？

ん



ん

ん

ん



なんだよこれ……
このままじゃ……！

う……あ……



ん

ん



ぐっ……!

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん



まさか……

飲んでるの……?



……姉さん??

70
14

70
14

2P.

しゅん
しゅん
しゅん

んっ



これが……
タクミさんの味……

はあ……

けほっ……



あ……あんた……
おかしいん
じやないの……？

ただの弟と
仲良くなるために
そこまでするなんて

……



血の繋がった姉の
お腹の中にも
これをいつぱい
出しましたよね？

おあいこです





は…
入りましたあ♡

姉さん…!

あんっ♡
はっ

タクミさんの…
奥までえ…♡

きゅんっ

んっ



あ…!

うふふ…
タクミさあん♡

すっ♡

んっ

んっ

姉さ……！
何して……！

うふふ……
タクミさんの胸……

姉さんに胸を
吸われてる……

感じているのですか？
ナカでびくびくして
いますよ？

っ……！
調子に乗るなよ！

タクミさんこそ
私のこと見くびら
ないでください

私だって……

はあ……

はっ……

はあ……！
タクミさん……
気持ちいいですか？

な……
何言ってる……！

あん……



あ……

キュッ



気持ちよく……
ないですか？



カ……
カムイ姉さんの中……
悪くないよ

どうしてこんなことを
言わされてしまうんだ



きょうだいですもの……
相性が良いのですね



タクミさんと
初めてした時……
いきなり襲われて
怖かったですけど

それ以上に
気持ちよかったん
ですよ

黒い塗りつぶし

私のここに
タクミさんが入って
出し入れするだけで

こんなにもあなたに
夢中になれるのだと
思いました

きょうだいであるのは
いけないことなのに……

そうだ……
これはいけないこと

きょうだい——

血が繋がっていて——

だからこんなことを
してはいけないって……
わかっていたはずなのに

私の奥……
あなたになら……

でももう
止められない

こんな姉の痴態に
女を感じた僕はもう

今だけは——



りあっ!!

弟にこんなことされて
よがりまくってる
くせにね?

姉さんにも一応
背徳感があったんだ?

ふうん

はう...♡

ぞしっ♡

あ...
奥...
刺さって...



や...あ.....
言わないでえ...!



僕だって.....
きょうだいでこんなこと
しちゃいけないって
わかってる

なの.....



激し.....!
だめえ.....

はちゅん

はちゅん

壊れちゃ.....!



どうしてあんたは
また!

タクミさ...

ひく

あん

じゅぶん

じゅぶん

じゅぶん



ひく

あ

ちゅん





ひあっ!!

はあ...
5...5N555...

中出し...
されてる...!

ズン

ビュルッ

ビュルッ

どう?姉さん
弟に中出しされて
気持ち良かった?

やあ...
それはあ...!

なんだよ...
あんたが
誘ったんだろ?

かあ...





僕だって……
きょうだいでこんなこと
しちゃいけないって
わかってる



……なに……
言ってるんだよ

姉さんは……
僕の姉さんだろ？

そんな……好きとか……
実の姉に……



姉さん……？



だからもう——



僕とカムイ姉さんは
血を分けたきょうだい

それはどんなに
肌を重ねても
何も変わらない

ホッ……

タクミさんは……
最初から私のことを
好きでもないのに

平気で私を抱いて
孕ませようと
していたのですね

それは……

違うんだ姉さん

僕は……!

……そうだよ

姉さんが誘うから……
実の姉と知っていても
我慢できなくなったんだ

昨日だって
今だって

元はといえば全部
姉さんが仕組んだ
ことじゃないのか?

どうして僕だけが
責められなければ
ならないんだよ……!

あんななんか……
好きでも何でもない!

数回肌を重ねたからって
思い上がるなよ!

っ……

わん……

……酷い……
あんまりです……

私は……タクミさんは
そんな人じゃないと
思っていたのに……

ちゃんと私のことが
好きだから
してくれるのだと
思っていたのに……

最低だ……どうして
僕はこのことしか
言えないんだろう

姉さんを無理矢理
抱いたのは僕なのに



私は…

タクミさんと仲良くなれましたか？



タクミさんと
想い合えるって

信じて
いたのに…!!



でも…タクミさんに
初めて抱かれてから

タクミさんが私のことを
女性として好きなのだと思い
私もその気持ちに
応えようとしていました



…ねえ

もしかして姉さんが
僕と仲良く
なりたいのって…

初めは…姉として
仲良くなれたらと
思っていました



でも…
それは間違い
だったのでしょうか？

それなのに
私は…!!

え………？

んっ

しゅわっ

しゅわっ

んっ

姉さんの舌が
入ってくる……

ん……

……好きです

私は……異性として
タクミさんのことが
好き……

なんで……？
血が繋がっているのに
姉さんが……僕のことを？



そして…
この気持ち

恋なのだと
気付いたのです



お風呂でタクミさんと
初めてして…中で精液を
受け止めたとき

心から満たされる
感覚がしました

タクミさんが私を
好きでいてくれたのだと
思い嬉しかったのです



でも…
もういいんです

私はタクミさんを
受け入れて好きになって
しまいました

この想いが
許されないことも
知っています



全部…

私の勘違いだった
ようですが

!?



なっ…!?



それなら私は

タクミさんを
どこにもいかせなければ
いいだけです



タクミさんが私の中を
あなたの形にしたように

私も……タクミさんが
私しか選べないように
虜にしてあげます

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ



だから……

ずっと私を見て?

私以外を
抱かないで……?



姉さん……
本気なの?

そうですね……

もし私を裏切って
他の人と結婚
しようとしたら

生き別れの実の姉を
孕ませた責任をとらず
他の女に逃げたと知ったら

兄さんや姉さんたちは
どう思いますかね？

そのときは結婚式で
この関係をお話して
しまいませんか？

なんだよ…
それ……

違う……この人は
いつもの優しい
姉さんではない

タクミさん……
私と仲良くなって
ください

だから僕が
今更何にしても

僕が姉さんを……
こうしてしまった

ずっと離れられない
くらい私と一緒に
いましょうか？

この人を拒むことは
できないんだ——

それなのに……
カムイ姉さんが僕を望む度
鏡写しのように
姉さんを欲しがらる僕がいる

決して恋をしては
いけない相手に
溺れていく背徳感が

唾液を絡ませ
肌を重ねる度に
快感になる――

ああ……そうか

最初から僕は

これを望んで
いたんだ――

わかったよ

僕だって男だ
この責任はとる

タクミさ……



姉さんが本気で
僕と一緒にいたいなら……

僕と結婚してくれよ



……いきなり
プロポーズだなんて

それは私が
タクミさんを好きだと
言ったからですか？

タクミさんは
大胆ですね

それとも……
私を抱いた贖罪ですか？

違う……
僕は姉さんを

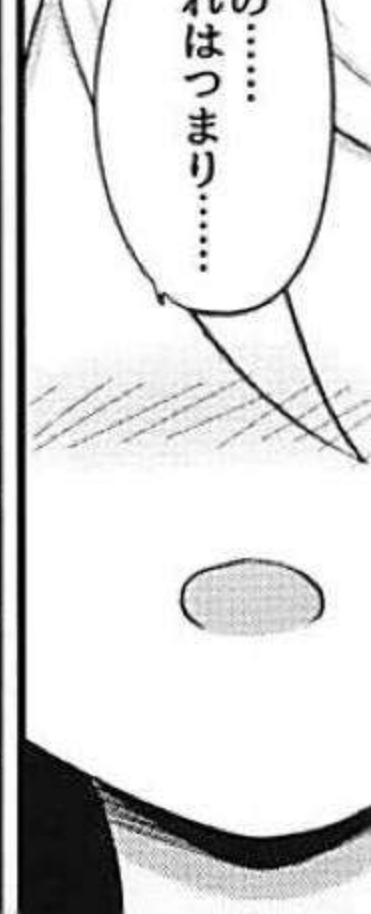


知っていますよ

タクミさんは
本当は私のこと
なんて……

違うんだ!!

んむっ!!





…っ！

好きだって
言ってるんだよ！

胸が苦しい……
初めての告白は
こんなにも苦しいのか



あなたが血の繋がった
実の姉でも構わない

僕は……
姉さんが欲しい

好きだよ
ずっと…僕のことを
見てくれた

姉さんのことが
好きになって
いたんだ



で…でもさつきは
私のこと好きじゃ
ないって……！

あんなの全部
嘘に決まってるだろ

そうじゃなきや…

あなた
姉を好きだなんて
言わないよ

……嘘です



だって私は…
嫌な女なのに

勝手にタクミさんの
ことを好きになって…
あなたを陥れて…
私しか選ばないように
脅迫して…

あなたを好きだと
言いながらあなたに
愛されることなど
何一つしなかったのに



だから僕から
求婚されて逃げようと
しているの？

だとしたら本当に
嫌な姉さんだな

でも…それは
僕も同じかな



僕も…身勝手な欲望で
姉さんに取り返しので
つかないことをした

きょうだいだから
あなたを愛することが
許されないことは
わかってる

だけど…姉さんが僕に
歩み寄ろうとするなら
このまま離れられなく
なれば良いと思った

それで…



嬉しかったよ……
初めて姉さんを
抱いたとき

気持ち良くて
夢中で孕ませよう
って思った

でも……
次第に自分のした
ことが怖くなった

姉とはいえ
一国の王女を
傷物にしたんだ

それを認めたくなくて
あなたがさも
悪いかのように

否定し

突き放すことも
言った

傷付けて

それなのに……

どうしてあなたは
こんな僕を好きに
なったの？

どうして僕を
恨まないの？

散々酷いことをして
姉さんの王女としての
人生を奪おうとした

弟なのに……！

タクミさん…

こんなこと聞いて
嫌いになったよね…
僕のこと

嫌いになんて
なりません！

私は…そんな
中途半端な想いで
あなた
弟を好きになったのでは
ありません！

本当にあなたが
僕のことを好きなら

僕は姉さんを
何度も抱いた責任を
とるよ

もう…あなたを
好きな気持ちに
嘘をついたりしない

ねえ

だから
姉さんも…

僕をこんなに
好きにさせた
責任を取ってよ…！

……



もう……泣かないですよ

あなたが血の繋がった弟の僕を好きになるなんて今でも信じられないんだから



……タクミさん……

ホロ

ホロ

タクミさん……！
タクミさん……！



だって……嬉しくて

きょうだいなのに私……一人の女性としてタクミさんと一緒になれるんですよね？

キラッ

うん……一緒になろう

僕だってあなたと一緒にいられるなら何だってする



タクミさん……私も好き……

あなたが……大好きです



大好きだよ……カマイ姉さん

姉さん……

背徳とか禁断とか
もうどうでもいい

僕は姉さんと
恋に落ちて
しまったのだから

あ……

キス……しちやい
ましたね……

もう何度も
しているだろ？

でも……気持ち
が通じ合った後の
キスが嬉しくて……

ぞい……

ぞい……

胸の奥が切なくて……
変な気持ちに
なっています……

タクミさん……
私……

はじっ!?

姉さん……

……はい

私の全てを
見てください……



はあ……
タクミさん……

その触り方……
いやらしいです

いやらしいこと
しているんだから
当たり前だろ？

感じてくれなきゃ
意味がないんだから

キ……

ん……



もう乳首が固く
なってきたよ
本当に感じやすいね

うう……
いじわるです

あ……！
ん……！そんな
にかき混ぜたら……！

グアッ

グアッ



や……あ……！
そんなところ
汚いです……！

姉さんが興奮
するとこんな匂い
になるんだ……？

ん……はあ……
凄い匂い……

ん……あ……

舌……
気持ちいい……

む……

じ……



今は僕のも
混ぜてるからね



はあ…

姉さんの味…
美味しいかも

する前に舐めて
おけばもつと
美味しかったかな？



あ…あの…!!

…何?
姉さん

タ…タクミさんの
くれないのですか？



もつとはっきり
言ってよ



あ…
そ…その…

タ…タクミさんの
お…



僕の何が
欲しいの？

いや…
言わせないで
ください!!

言ってくれないと
わからないだろ？

姉さん



う…はあ…

タクミさんの…
お…おちんちんを…

は！

は！

姉さんのここに
入れてください！

くちゅっ

くちゅっ



はっ…姉さん…
入れただけで
イかないでよ

くちゅっ

びしょびしょ
じゃないか

くちゅっ



あん…♡
ごめんなさ…



しようがないなあ
姉さんは！

あぁあん！！

あ

あ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ



お仕置き…
いっぱい……

はい……
してください……

淫乱な姉さんには
またお仕置きが
必要な？

ぞくぞく



やっぱり
姉さんの中は
最高だよ

何回だって
できそうだ



ふふっ
嬉しいです……



はぁ……
優しく擦られて……

いったばかりなのに
感じちやいます……

あん

あ

はぁ

にゅゅん

にゅゅん



これ...後ろから胸揉まれて...!

あー

あー...!!

もみ

もみ

ん

すっすっ

すっすっ

すっすっ



もう絶対離したりなんてしません

私は身体も心もタクミさんのものです

大きくて柔らかくて...僕だけのものになりたい

僕は姉さんの胸好きだよ

いいですよ



あー!!

あー...あー...

あー

姉さん...出すよ!

じゅっ

じゅっ

じゅっ

きゅっ



ああああん♡

あ、

ふちっ

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

ん、



でもまだ
足りないんだ…

うん…



もっと…もっと
してください…！

うれしい…



はあ…はあ…



挿き出された分
ちやんと出して
くれましたね…

あ……

タクミさん……

こ……どう……
ですか？

ん♡

うん

そのまま
動かないでね

はっはっはっ♡

あ♡

ず
ず
ず

キョウウウ

あ♡

ポッ





はっ♡

はっ...

姉さんはタクミさんのおちんちんが大好きですからあ♡

はっ

はっ

あ...



んっ

そんなに弟のがいいんだね

あは...

する度に敏感になつてるよ姉さん

はっ

はっ

はっ



あん！
好き！
好き！
好き！

大好き
ですからあ！



下半身だけ？

僕のこと
は好きじゃないの？



きちゃう...

またなにか
きちゃうちゃう！！

はっ

あ...あ

はっ



嬉しいよ

僕も...
姉さんが好きだ



あああん♡

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



いいんです
部屋なんて
汚れたって……

私は…大好きな
タクミさんとセックス
しているから…
幸せです……



あーあ……

お漏らしするほど
よかった？



姉さんの部屋
なのにどんどん
汚れていくよ？

はー

はー





姉さんの身体も心も
僕のものじゃ
なかったの？

それは……
うう……

姉さん可愛い……
もつと……恥ずかしい
ことをしたくなる



私の中に
入らなくなったら
どうするのです？



姉さん
まだできるよね？

もう……タクミさん
いつのまにそんなに
大きくして……



それは

責任取って姉さん
に入る身体にするかな



ほら……
中広げるよ？

ああ……
大き……あ……



大丈夫

女性は入るよう
にできてるって
本に書いてあったから



はあきあきあん♡

あー

あー

きゅん

あー

アッ



僕が姉さんを
こんな身体に
したんだ……

本当は……
いけないこと
なのに



きゅん

きゅん

ふふ…本当に
入っちゃったね



クワン



いけないことと
知っているのと
余計に興奮するんです



もう…そんなこと
今更ではないですか

それに…

どうしてこんなこと…
これじゃあまるで

姉さん…
僕もだよ

姉さんとういう
ことしてるなんて
皆が知ったら…

良いではないですか
私たちはもう
夫婦なので

僕たちは最初から

こ
う
な
事
が
わ
か
つ
て
い
た
み
た
い
か
じ
や
な
い
か

私のこと…
もつと愛して

あ
な
た
だ
け
の
姉
に
し
て
く
だ
さ
い
…
!!

うん…!!

こ
れ
は
許
さ
れ
な
い
姉
弟
の
遊
戯
だ

それでも身体が
繋がっている
間だけは

何もかも
忘れられる
気がした—

えあ、

あ、

あ、



中を痙攣させて
感じてるじゃないか

あつ……！
タクミさ……激し……っ！

ねえもつと
腰を振ってよ

なか……いっばい
こすられてるの！

んあっ！

ぬちゅっ

ぬちゅっ

あ



ここを刺激すると
いいんだっけ？

へえ？

あーやあー！

りやああ！！

ズホッッ

ズホッッ

キヤんっ

とんじや……
とんじやうからあ！！

あつ……お願い……
そこはだめえ……！



僕の子種
全部あげるから

ちやんと孕んで
くれるよね？

は…はい…
つくります

タクミさんの
赤ちゃん孕み
ますからあ！

奥…激しく
してえ！

良い締め付けだよ
そんなに僕のが
欲しいんだね

だして…！！
だしてえ…！！

タクミさんの精液
私の中にいっぱい
染みこませてえ！

ほら！
孕んでよ姉さん！

あっ！

あっ

ギョッ

やん

ハッ
フッ

ハッ
フッ

ハッ
フッ

ぞく

ぞく



あー

あーあー

あーあー
あーあーあー

はあはあはあ

あーあー

あーあー



あーあーあー
だめえー!!

あーあーあー

あーあーあー

あーあー

あーあー

あーあー



あ…あ…
すきい…♡

はー

はー

タクミさんの
せいえき…
すきい…♡



嫌だよ！

全部受け止めて
くれるまで
やめないから！

あー

あー

ふんふん

ふんふん

ふんふん



こんなにしたら
できちゃいますね

はー

むに

タクミさんの
赤ちゃん…♡

むに



はあ…

はあ…

フホッ

フホッ

おなか…
すこいです…



ん…僕と
姉さんの子か

きつと姉さんに似て
可愛いんだろうな

ふふ…っ

タクミさんに
よく似た子でも
可愛いですよ？

あ…タクミさん





愛してる……!

ホロ

ホロ

大好きだよ……!

僕だけの
カムイ姉さん……!



数日後

姉さん!

ほっ

タクミさん?

どうしたの
ですか?

姉さん……
大変なもの
を見つけたんだ



これ……
なんだけど

これは……
手紙ですか?

僕が……読まずに
ずっと持ってた

姉さんが白夜に
戻ってきたときに
母上から受け取ったもの
なんだけど……



ま…待っててください…
これって…

私たちに…
血の繋がりが…
無い…？



最初から僕たちは
結婚できたって…

母上はこのことを
予知して手紙に
残していたのかな

これを知っていたら
私はあんなに恥ずかしい
ことしなくて済んだでは
ないですか！

ごめん…！



実は…母上に
恋に悩んだら読めと
言われていたんだけど

今までその意味が
わからなくて
今更…

…姉さん？

ふふ

ふふ



姉さん…



よかった…

私たちは許されない恋ではなかったのですね

ホッ
タクミさんを愛することは罪ではなかったのですね…



タクミさんと…
白夜のきょうだいたちと
血の繋がりがなかった
ことは寂しいです

でも…血の繋がりが
あると思っていたからこそ
私のタクミさんへの想いが
抑えられなくなったのも
事実です

好きじゃないと
言われたときは
もうどうなってもいいと
思いましたよ



っ…



わかっています

タクミさんも
同じ気持ちだったの
でしょう？



だから
それは…!



!



や…やめろよ！
恥ずかしいだろ！

か
あ
あ
あ
あ



おかしいですよね
実の姉弟で
惹かれ合って

せ…セックスまで
して…



だって僕は

そ…



でも…僕が姉さんを
好きになったのは
本当に
本気で

それは血が繋がって
いてもいなくても
変わるものじゃない



あなたを姉さんと
してじゃなくて

一人の女性として
好きになったんだから



なっ!?

ドキッ



ところで…

私のこと…
いつまで姉さんと呼ぶのですか?

?

私はもうタクミさんのお嫁さんですから名前でも構わないのですよ?



姉弟プレイですか?

ニッ…

恥ずかしいですけど…タクミさんが私を愛してくれるなら

私はそれに従います



僕がわざとそういう遊戯をしているみたいに見える!



ちよ…! 違う! 僕にそんな趣味はない!

姉さ…カムイ!

スッ



お風呂でもベッドでも私を抱き締めて姉さんと呼んで構いませんか?

私もタクミさんを姉さんとして愛してあげます

ニッ
ニッ

えっ!?



ホッ

ドキッ…

あとがき

こんにちは！アヤメと申します。
この本をお手に取っていただきありがとうございます。
おそらく大半の方は前編もお手に取っていただけだと思いますが、
後編の方も楽しんでいただけたなら幸いです。

この話はきっかけは姉弟でやらかす話を描きたいと思ったからなのですが、
内容自体は「代償」を中心のテーマにして話を作っていました。
話を作りながら、思った以上にやらかしの代償が凄いいことになってしまいまして、
私自身もあのカムイちゃんはちょっと怖いと思いながら書いていました。
あのままタクミが頑なに嘘をつき続けていたらどうなったか、考えるだけで怖いですね。
また、この話自体がタクミ視点の物語なので、背徳と恋心の間で揺れ動くタクミの心情を、
少しでも感じ取れればと思います。

ちなみにこの話、単純な話の割には完結させることが難しく、
合計で100回以上細かい手直しを加えたと思います。
ついでに初期はカム♀タクでした、さすがに無理があったのでタクカムになりました。
カムイちゃんがタクミを襲うシーンはその名残です。

登場人物の心情などは色々と想像を膨らませていただくのが一番かと思いますが、
補足説明とするならば、まず前編開始時点ではタクミ→カムイの片思いで、
カムイちゃんはタクミを男ではなく弟だと思っています。
その後、前編終了時点で身体の関係をもったことによりタクミ←カムイになり、
タクミは姉であるカムイちゃんの純潔を奪ったことによる罪の意識から、無理に避けようとしています。
これが後編の話の中心となっています。
ただ、元々このタクミはカムイちゃんが好きなので、襲われるとそのまま流されます。
それでいいのかタクミ。

ちなみに「姉弟遊戯」のタイトルは、姉弟プレイまんまの意味もあるのですが、
「姉弟の戯れ」という意味も込めていて、姉弟で男女の交わりをしてしまうという裏の意味もありました。
タクカム二次にありがちなことですね。まったくこれだからタクカムは。

次は思いつき次第ですが姉弟プレイアフターか、全く別の話かなと思います。
そろそろ本だけでなくグッズも作りたいので、突然グッズ屋に転身するかもしれません。
まあそれはないか。

ではまたどこかでお会いしましょう！

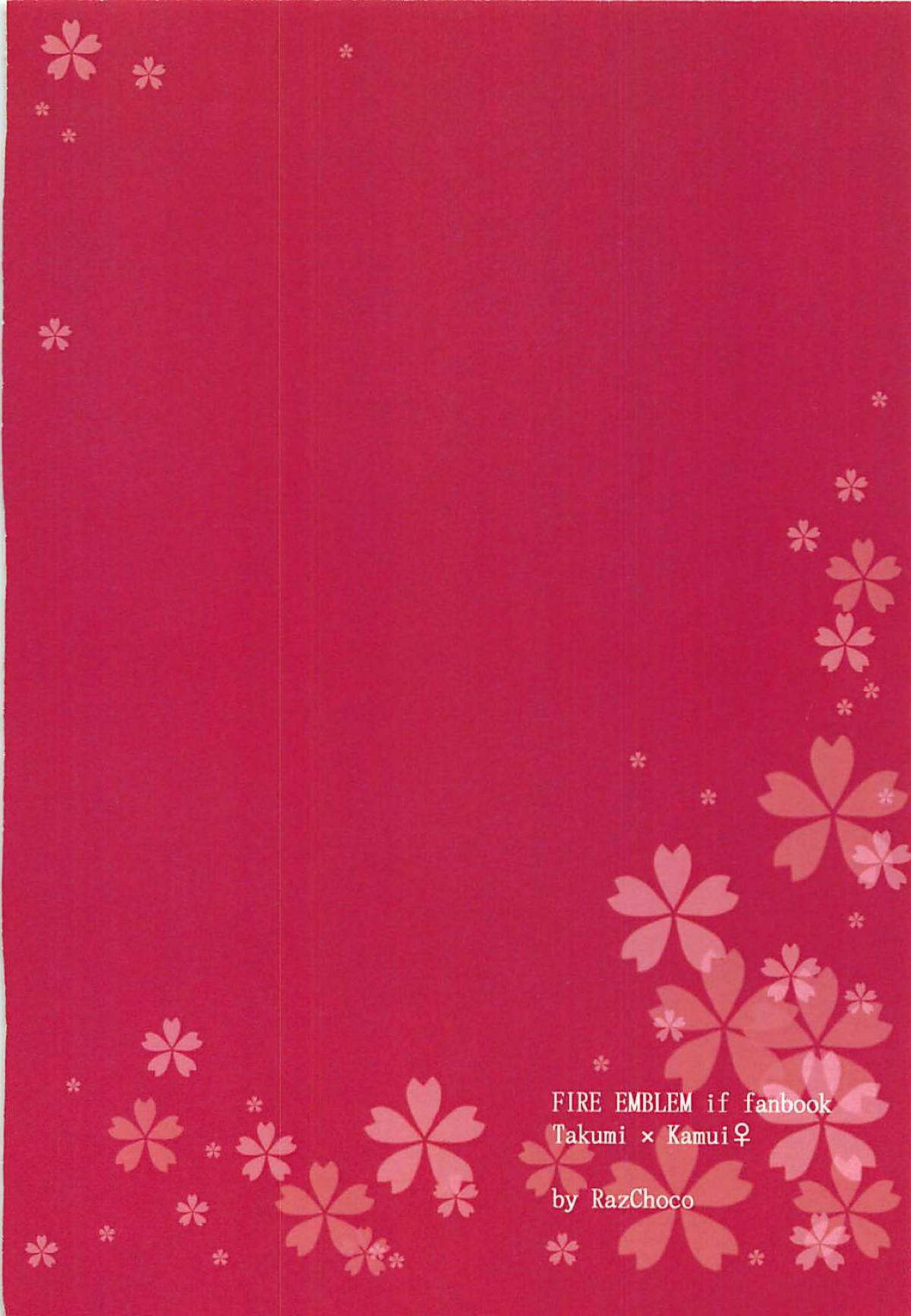
アヤメ

姉弟遊戯-していプレイ- 後編

発行 : アヤメ (RazChoco)
発行日 : 2018.02.25
E-mail : ayame_kagurane@yahoo.co.jp
pixiv : 1759906

印刷 : STARBOOKS

※この本は非公式です。原作メーカー様、及び関係者様とは一切関係ありません。
※無断転載、複製、オークションの出品を禁じます。
※リアル姉弟プレイはご遠慮ください。



FIRE EMBLEM if fanbook
Takumi × Kamui♀

by RazChoco